

史料4000 文化十四巳年三月
組与力仁杉五郎左衛門於鎌倉大筒稽古自分入用差願上一件

丑六月廿九日差出又

於鎌倉大筒稽古等願候儀二付奉伺候書付

仁杉五郎左衛門

去寅年於相州鎌倉大筒稽古、順年二付右稽古相願候もの有之候ハバ当月迄二可相願趣二御座候間、私儀此度之儀者自分入用を以稽古相願申度奉存候、然処此節御用中二付右願書差出申儀見合罷在候、来月二至り相願可申候哉、又者此節相願候とも不苦候儀二可有御座候哉、此段奉伺候 以上

丑二月

仁杉五郎左衛門

丑七月十九日御仁杉五郎左衛門差出候願書並例書共相添九月荒引彦次郎江写相送又

駿河守殿

組与力大筒稽古之儀申上候書付

書面仁杉五郎左衛門義当春鉄砲稽古之儀願之通

自分入用を以可罷越旨被仰渡承知仕候

寅正月廿七日

岩瀬加賀守

組与力仁杉五郎左衛門義、御書院番頭戸田土佐守御預り与力村上源之允砲術修行仕候処、来寅年相州鎌倉大筒為稽古罷越御筒等拝借仕自分入用を以稽古仕並之通筒其外御幕雜具等拝借稽古仕度奉願候、尤源之允義右同様之御筒等拝借稽古相奉願候間、願之通被仰付候ハバ拝借御道具之分於御場所順用拝借仕度奉存候、且又並之通御見分請申度此段奉願候、以上

町奉行 岩瀬加賀守組与力

丑七月

仁杉五郎左衛門

於鎌倉大筒稽古奉願候例書

右同断

右同断

私義御書院番頭戸田土佐守御預与力村上源之允二而荻野流砲術修行仕候、然儿処来寅年於相州鎌倉大筒稽古之儀被仰出候間、私義も右場所二罷越此度之儀者自分入用を以矢玉町打稽古支度奉存候間、稻富流壱貫目玉御鑄筒、同流三百目玉御筒、外記流百目玉御御見分受申度旨別紙之通奉願候、可相成義二候ハバ願之通被仰付上被下候様仕度奉存候、以上

丑七月

岩瀬加賀守

於鎌倉大筒稽古之儀奉願候書付

町奉行岩瀬加賀守

仁杉五郎左衛門

御様御屋敷

添番 小森清兵衛

右文化七午年鎌倉において大筒稽古之儀奉願候処同六巳年十二月廿二日願之通稽古可仕、仕方駿河守殿被仰渡候断松浦越前守申渡候

於鎌倉大筒稽古先例之儀二付奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

私義来春鎌倉において大筒稽古之儀願奉候処御聞濟被成下置難有仕合奉存候、然処兩御組二者先例無之候二付、御広敷添番にて鎌倉江罷越稽古仕候もの有之候間、承合申上旨被仰渡奉

10

畏承合候処、当時小普請組諏訪隼人組小森清兵衛儀元御広敷添番相勤候節、右稽古願之通被仰付候先例別紙之通御座候■願書被仰渡書共写奉入御説候、且又申上候■奉■入候得共、町方兩御組之儀者御預り御鉄砲有之、組屋敷二而矢傷跡も有之古来より鉄砲稽古仕候義に御座候処、御用向多自■而相止中絶仕

11

候二付元文三末年九月松波築後守殿石河土佐守殿町方御勤役之節、与力同心年々鉄砲稽古為致向後者玉葉も受取度段御同之上、同年十月松平左近将監殿御書付を以町奉行与力同心鉄砲稽古之義■之通被仰付■玉葉被成御渡、尤与力者諸組共可被成御渡事二候間、可得■旨被仰渡候趣も御座候承二付御用向不差

12

■合節者砲術稽古仕申候、未熟之私儀■奉恐入候得とも此度願之趣御聞濟被成下置候様格別之御憐憫を以被仰上之程■奉願候、以上

七月 仁杉五郎左衛門

私義元御広敷添番相勤候節、文化七年年於鎌倉大筒稽古被仰付御入用金下置、壹貫目玉百目玉御筒二而

13

町打仕候

右植村駿河守殿被仰渡申段松浦越前守申渡

小普請組

諏訪隼人組

小森清兵衛

元文三年年十月五日

松平左近将監殿御渡被成候御書付写

14

寅正月廿九日申渡

仁杉五郎左衛門

当春於鎌倉砲術稽古之儀願之通自分入用を以被罷越候、右植村駿河守殿被仰渡候

寅正月

15

御組与力仁杉五郎左衛門義当春於鎌倉大筒稽古被仰付候間早々打初又甚■二不掛内打仕廻候様日割、井上左太夫宅江罷越申合候様御申渡可有候、以上

16

正月廿八日

拜■左兵衛

岩瀬加賀守殿

右達去寅正月廿九日願■■■へ相渡又

砲術稽古日割井上左太夫方江罷越申合候儀申上候書付

仁杉五郎左衛門

当春於鎌倉鉄砲稽古日割

17

之義井上左太夫方にて申合有之候間私義業書持参、今日四時同人宅江罷越候様、二付罷越業書差出別紙之通日割等之儀申合候、尤業書之儀相置候ハバ追而引替候積御座候、但右業書日割書付写相添此段申上候、以上

二月朔日 仁杉五郎左衛門

18

業書

仁杉五郎左衛門

業書

町奉行 岩瀬加賀守組与力

仁杉五郎左衛門

一、壹貫目玉御筒二而矢玉遠近町打

一、三百目玉御筒二而右同断

19

一、百目玉御筒二而右同断

但 町数之儀者打掛候上二而相極御見分受可申候
右之通御座候、以上

寅二月朔日 仁杉五郎左衛門

於相州鎌倉大筒稽古日割書付

三月十六日出立 齊藤庄兵衛

四月朔日 返 同 重太郎

往来共日限十六日

御見分三月廿六日廿七日両日二受可申候

20

三月廿七日出立 井上左太夫

四月廿二日 返 同 銀太郎

往来共日数廿五日

四月九日出立 芦名傳十郎

同月廿四日 返

往来共日限十六日

御見分四月廿一日二受可申候

但井上左太夫日割之内江日数十四日割込二而稽古仕候

四月廿一日出立 佐々木傳左衛門

六月十七日 返 同 勘三郎

往来共日数五十六日

六月十二日出立 小川 庄太夫

同月廿七日 返

往来共日数十六日

21

御見分六月廿四日二受可申候

但佐々木傳左衛門日割之内江日数六日割込二而稽古仕候六月廿四日出立

森

■十郎

七月九日 返 渡邊庄左衛門

往来共日数十六日

御見分七月五日六日両日二受可申候

七月六日出立 依田 大助

七月九日 返 依田 大三郎

往来共日数十六日

御見分七月十七日十八日両日二受可申候

七月十八日出立 五井 権蔵

八月三日 返 同 鉄次郎

22

往来共日数十六日

御見分八月十一日十二日両日二受可申候

八月十二日出立 垣本 源之丞

同月廿七日 返

往来共日数十六日

御見分八月廿四日六日両日二受可申候

八月廿四日出立 仁杉五郎左衛門

九月十日 返

往来共日数十六日

御見分九月七日二受可申

申合右之通日割候、風雨等続候得者相■申候、以上

寅二月朔日

23

仁杉五郎左衛門様

西尾忠右衛門

御手紙■■■上候、稽古日申然者当月朔日大筒割合之節御談申置候一目業書此節左太夫より御目付殿江差出候二付御手前様五百目御筒御願替之儀最早相濟候哉致承知候、若御願濟未■間取込可申

24

申趣二候ハバ■■去ル朔日御書上業書之通相認御目付殿江差出置追而御願相濟候ハバ其節引替候様可致旨左太夫■の候間此段■■急度如此御座候、以上

二月八日

25

寅二月五日

守殿江五郎左衛門願書添志賀屋■郎を以上ル ■月左兵衛江

達又 同月廿六日承二付御掛御目付拜■左兵衛申聞候二付承■いたし■■候而同人披仰願返上

組与力

御鉄砲拝借之儀申上御書付

岩瀬加賀守

私組与力仁五郎左衛門義此度於相州鎌倉大筒稽古之義願之通被仰付候、然ル処大御番頭戸田土佐守御預与力村上源之允義

然旨右願之通被仰付候ハバ同人拝借仕候御道具之分

26

順用拝借此度奉願置候処同人義当年者稽古不被仰付候諸組与力とも拝借仕候御筒評価仕候御

筒拝借仕度旨別紙之通奉願候可相成義二候て願之通被仰付上下候様仕度奉存候、以上

寅二月

27

御鉄砲拝借二而之儀二付奉願候書付
町奉行岩瀬加賀守組与力
仁杉五郎左衛門

私義此度於相州鎌倉大筒稽古罷越御筒拝借仕自分入用を以稽古仕並之通御見分受申度旨奉願候処願之通被仰付難有仕合奉存候然ル処先達而奉願候者元御書院

28

番頭当時大番頭戸田土佐守御預与力村上源之允義吉貫目玉御筒三百目玉御筒百目玉御筒其外御幕雜具一式拝借奉願候二付願之通仰付候ハハ同人拝借仕候道具之分於御場所順用拝借此度奉願置候処同人義当年者稽古不被仰付候二付此度稽古被仰付候諸組与力之内承合候処右両月之御筒拝借奉願候もの無御座

29

候五百目玉御筒百目玉御筒者別■申名前之ものとも拝借仕候二付可相成御儀二御座候ハハ私義右之御筒拝借奉願候、以上

町奉行岩瀬加賀守組与力

寅二月

仁杉五郎左衛門

30

御持筒頭

伊東長兵衛組与力

齊藤庄兵衛

同 ■口孫左衛門組与力

森 ■十郎

御先手大久保伊予守組与力

五井 権蔵

31

右之もの共五百目玉御筒百目玉御筒拝借仕候旨申■■候間於御場所順用之罷申談候処差支無之旨順用候而者差支之儀も可有御座候二付私儀もケ申同様宅江下度奉存候、尤御筒御鑄形共拝借此度奉存候

右之通御座候者追而奉願置以通御幕雜具等一式順用

32

評価仕度奉願候、以上

申聞候

一、五百目玉御筒

但是者於御場所右之もの共より順用拝借仕度奉存候、且道中持運之儀者順用二相成候二付五井権蔵江被下置

33

置候傳馬人足二而引返候積二御座候

一 百目玉御筒

但是者鎌倉稽古中拝借仕度奉存候、且火矢等仕込候二付銘々宅江下ケ候様奉願候間

御鉄砲評価方之儀二付別紙申上候書付

仁杉五郎左衛門

私義此度於鎌倉大筒稽古之

34

義願之通被仰付難有仕合奉存候、然ル処元御書院番頭当時御番頭戸田土佐守御預与力村上源之允義老貫目玉三百目玉百目玉右御筒其外雑具等一式拝借奉願候二付同人江拝借被仰付候御道具之分御場所において私江順用評価仕度奉願候処源之允義者当年稽古不被仰付候二付右御道具御場所二者無御座候故御場所において順

35

用之儀相成不申候間諸組与力之内右同様之御筒拝借仕候者可有之哉者当年稽古被仰付候もの共承合候処右同様之御筒評価奉願候もの無之五百目玉御筒者拝借仕候者有之候二付、私義も右同様五百目玉御筒拝借仕候得者御場所において順用二相成都合宜奉存候間可相成御義二有之御座候ハバ最初奉願候老貫目玉御筒三百目玉御筒

36

拝借之儀者御免被成下五百目玉御筒并先達而奉願置候百目玉御筒都合式挺拝借仕度奉存候二付井上左太夫二も其段申立候処左候ハバ右之趣早々相願御下知相濟仕方業前■引替候様被申聞候旨同組与力西尾忠右衛門申聞候依之何卒別紙之様御聞濟被成下候様奉願候、以上

寅三月

仁杉五郎左衛門

37

明樂嘉太夫宅江罷越面談仕候儀二付奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

御鉄砲玉菓奉行明樂加太夫宅江罷越候処私義此度鎌倉において大筒稽古被仰付候二付百目玉御筒之儀順用二被仰付候而者差上之義有之候■■旨申聞候二付順用江

38

仰付候而者初立之者御筒持参仕候二付右者来月十六日出立仕候間夫迄之内最早余日も無之候間前々順用仕候而者棒火矢等多仕込候儀難相成候間可相成候ハバ右御筒者順用之■共拝借被仰付候様仕度旨申渡候処左候て別段相渡候様以承斗候間例之通證文下書相認差出候様申■候然ル処私義五百目玉御筒百目玉御筒拝借此度旨者連有之

39

願替之儀申上置候処未御沙汰無御座候故御留守居方江之御断者不申上候得とも右者最早及其儀可不申置之御筒受取候而相濟候儀二有之候哉と承合候処御断向之義者何とも挨拶および兼候得共私義御筒願替之書面者連而諸向御断と可諸二相■候間書面を御断之■■■居候間別段御断二者および間度哉者ハ存候得とも今一

40

通■向同様御断有之候方可罷哉之方同人申もの御■井上左太夫殿御筒受取證文二も五百目玉

御筒私江も順用いたし候趣文有之證文二て御筒相渡候間私義願替之義者最早相濟候儀之心得居候由是又申聞候二付何卒■■り御筒衆江も被仰談御断之儀被仰上被下候様奉願候依之別紙諸向御断等之儀奉申上候■委細之義

4 1

者口上以可奉申上候、以上

二月廿四日

仁杉五郎左衛門

大筒稽古日割業書相置候儀二付申上候書付

仁杉五郎左衛門

此度於相州鎌倉稽古日割

4 2

等之儀者追而井上左太夫於宅諸向一統申合日割相極候段申上置候処病氣二付稽古御断申上候もの右之もの共相除日割相直

候間■日割書付并業書共別紙之通駿河守殿江

大筒稽古日割業書相置候儀二付申上候書付

仁杉五郎左衛門

此度於相州鎌倉大筒稽古

4 3

日割等之儀者追而井上左太夫於宅諸向一統申合日割相極候段申上置候処病氣二付稽古御断申上候もの有之右之もの共相除月割日割相直候間別日割相書付并業書共別紙之通駿河守殿江

左太夫より致注進候旨同人組与力西尾忠右衛門より廻状を以申越有之趣別段左太夫より■■不申候間私共より申上候様申越候、依之別紙写式通相添此度奉申上候、以上

寅三月

仁杉五郎左衛門

大筒稽古業書

御先手御鉄砲方兼帯

井上左太夫

於鎌倉大筒町打并大術業

4 5

大筒御鉄砲拝借仕候二付御留守居方江

御断之儀承申上候書付

仁杉五郎左衛門

外記流

一 五百目玉御筒

壺挺

但御鑄形共

是者私義此度於相州鎌倉大筒稽古被仰付候二付順用之御筒拝借仕度奉存候、稽古相濟返納可仕候通棒火矢等仕込候二付右御筒

4 6

鎌倉江御差立二相成候已然御藏地江度々罷出御筒拝見之上

仕掛ケ道具■合等仕度奉存候

関流

一 百目玉御■筒 壹挺

但御鑄形共

是者右同断二付鎌倉稽古中拝借仕且棒火矢等多仕込候二付宅二下ケ申度奉存候、稽古相
济帰府之上返納可申候

右者私義於相州鎌倉大筒稽古被仰付候二付御筒等

47

拝借仕書面之通り請取申度奉存候、此断御留守居方江御断之儀被仰上可被下候奉願候、以上

竹橋御蔵地御門等出入御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

私義此度於相州鎌倉において大

48

筒稽古被仰付候二付此節・稽古相济迄竹橋御蔵地江度々罷出拝借之御筒拝見仕棒火矢等
多仕込候二付矢等道具等持参手伝之もの等召連度々罷出候二付竹橋御蔵地御門警固方御
番所江度々之出入御断之儀御目付殿江被仰達被下候、依之此段奉願候、以上

寅二月

仁杉五郎左衛門

49

御桃灯受取御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

一 御桃灯 二張

但高張御桃灯竿共

右者私義此度於相州鎌倉において大筒稽古被仰付御道具拝借仕候二付右桃灯拝借仕請取申
度、尤稽古相济帰府之上返納可仕候此段御目奉願候、以上
御目

50

付方江御断之儀被仰上可被下候此段奉願候、以上

寅二月

仁杉五郎左衛門

御桃灯受取御断之儀二付奉願候書付

仁杉五郎左衛門

先達而奉願候私義此度於鎌倉大筒稽古被仰付候二付高張御桃灯弐張拝借奉願請取之儀御
断被仰上被下置候、然処何■請取之罷出候二而宜御座候哉、右日限御目付殿江御問合被
成下候様奉願候、且其節大手門通出之御断之儀是又御目付殿江■達置被下候様仕度此段
奉願候、以上

寅三月

仁杉五郎左衛門

52

御桃灯請取候儀申上候書付

仁杉五郎左衛門

一 御紋附高張桃灯竿共二張

右者此度私義於相州鎌倉稽古願之通被仰付拝借仕候二付今
自御桃灯奉行長谷川保助より請取申候、依之申上候、以上
八月十七日 仁杉五郎左衛門

53

御幕順用拝借御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

- 一 布交御幕 式対
右者私義此度相州鎌倉において大筒稽古被仰付御筒其外雜具
一式順用拝借之儀願之通被仰渡候二付書面之御幕於御場所順用拝借仕候此段小普
54

請奉行殿江御断之儀被仰上被下候奉願候、以上
寅三月 仁杉五郎左衛門

■其外品々順用拝借御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

- 一 三寸齒間之車 壺輜
55
一 手木大小 四本
一 ■同断 四筋
一 琉球薩 五六枚程

右者私義此度相州鎌倉において大筒稽古被仰付御筒其外雜具共
一式順用拝借仕候、此段御作事奉行殿江御断之儀被仰上被下候奉願候、以上
56

寅三月 仁杉五郎左衛門

■具品々順用拝借御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

- 一 ■幕■■■繩土俵杭木敷板
57

鋤鍬鎌其外雜具品々一式

右者私義此度於相州鎌倉大筒稽古被仰付御筒其外雜具共一式順用拝借之儀願之通仰渡候二付
書面之品々於御場所順用拝借
仕候此段御勘定奉行殿江御断之儀被仰上可被下候奉願候、以上

寅三月 仁杉五郎左衛門

58

拝借請取申御筒之事

外記流

- 一 五百目玉御■筒 壺挺
但御鑄形壺■共

右者当春相州鎌倉において大筒町打被仰付候二付植村駿河守殿御断を以書面之御筒鑄形共

御持頭伊東長兵衛組与力齊藤庄兵衛御持筒頭■口孫左衛門組与力森■十郎後■■左衛門
御先手大久保伊勢守組与力五井権藏御留守居石河

59

甲斐守与力坂本孫■■町奉行岩瀬加賀守組与力仁杉五郎左衛門順用拝借被仰付請取申處
実正也、右名差之通致順用町打稽古相濟仕方五井権藏より返納可致候證文依而如件

文化十五寅年 月 井上左太夫 印

古坂■■■殿

明樂嘉太夫殿

60

一 五百目玉御筒

但是者於御場所順用拝借仕度奉存候、且道中持運之義者順用相成り候二付五井権藏
江被下置候傳馬人足之■引返候積二御座候

右之通有之先月五日頃より■■相成御目付殿江達相■申候

以上

三月七日

仁杉五郎左衛門

右之通五井権藏江■又

61

寅二月

駿河守殿

岩瀬加賀守

覚

外記流

一 五百目玉御■筒

壺挺

但御鑄形共

是者私組与力仁杉五郎左衛門鎌倉において大筒稽古被仰付候二付順用拝借仕度奉存候、稽
古相仕■■返納仕候

同流

一 百目玉御■筒

壺挺

但御鑄形御筒共

是者同断二付右御筒拝借仕五郎左衛門宅江下ヶ火矢拵等仕度旨相願申候御筒稽古相仕舞
歸府之上竹橋御藏地江相納可申候

右者私組与力仁杉五郎左衛門当春於鎌倉大筒稽古被仰付候二付順用拝借仕

63

度奉存候、御留守居様江被仰渡可披下候 以上

寅三月

岩瀬加賀守

64

御筒宅下ヶ仕候二付御門御断之儀奉申上候書付

仁杉五郎左衛門

私義於鎌倉大筒稽古江被仰付

65